

科目名	ディベート技術学修 Study of debate skill	科目コード	A0380
-----	------------------------------------	-------	-------

学科名・学年	専攻科・1年（システムデザイン教育プログラム・エキスパートコース1年）
担当教員	外山 茂浩（電子制御工学科）、池田 富士雄（機械工学科）、井山 徹郎（機械工学科）、床井 良徳（電気電子システム工学科）、赤澤真一（物質工学科）、村上 祐貴（環境都市工学科）、土田泰子（一般教育科）、桐生拓（一般教育科）
区分・単位数	履修単位科目・選択・2単位
開講時期・時間数	後期, 30 時間【内訳：講義 20, 演習 10, 実験 0, その他 0】
教科書	
補助教材	適宜プリントを配布
参考書	本校図書館エンジニアリングデザインコーナーに所蔵されている書籍

【A. 科目の概要と関連性】

アカデミックディベートは、ロジカル・シンキングとレトリックを中心としたディベートの要素を含むことから、まずは e ラーニング教材を活用してロジカル・シンキングの基礎を学ぶ。次に、ディベートの概論を学ぶとともに、フローシート、質疑応答、反論反駁方法といったディベート技法を学ぶ。最後に、技術倫理に関するテーマについてディベートを行い、社会における技術者の責任、倫理に関する問題意識を持つこと、自分の意見を持つことを狙いとする。

○関連する科目：プログラム研究基礎セミナー（前年度履修）、プログラム研究特別セミナーⅡ（次年度履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(E)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
①課題を発見し解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	40%	(E1),(E2)
②複雑な事象の本質を整理・構造化して結論の推定をするために、論理的に展開できる。	40%	(E1),(E2)
③法令や過去の事例等の様々な要素を参照・融合した行動計画を評価できる。	10%	(A3)
④技術の発展と持続的社会的な在り方から自身を把握し、自らのありたい姿を考えることができる。	10%	(A2),(G1)

【C. 履修上の注意】

論理学、ロジカル・シンキング、レトリック、弁論術といった関連書籍が本校図書館エンジニア

リングデザインコーナーに所蔵されているので参考にすること。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60点以上を合格とする。

- 定期試験（0%）
- その他の試験（20%）【内訳：ディベートに関する小テスト 20】
- レポート（20%）【内訳：技術倫理・キャリアデザイン 20】
- その他（60%）【内訳：ディベート演習 1 30, ディベート演習 2 30】

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	備考
1	ガイダンス、ディベート概論（前半）	iTunes U 国際日本語ディベート講座 (九州大学)
2	ディベート概論（後半）	
3	論題の分析方法	
4	肯定否定論の構築方法	
5	フローシート、質疑応答、反論反駁方法	
6	フローシート、質疑応答、反論反駁方法	
7	技術倫理に関するディベート演習 1	
8	技術倫理に関するディベート演習 1	
9	技術倫理に関するディベート演習 1	
10	技術倫理に関するディベート演習 1	
11	技術倫理に関するディベート演習 2	
12	技術倫理に関するディベート演習 2	
13	技術倫理に関するディベート演習 2	
14	技術倫理に関するディベート演習 2	
15	まとめ	